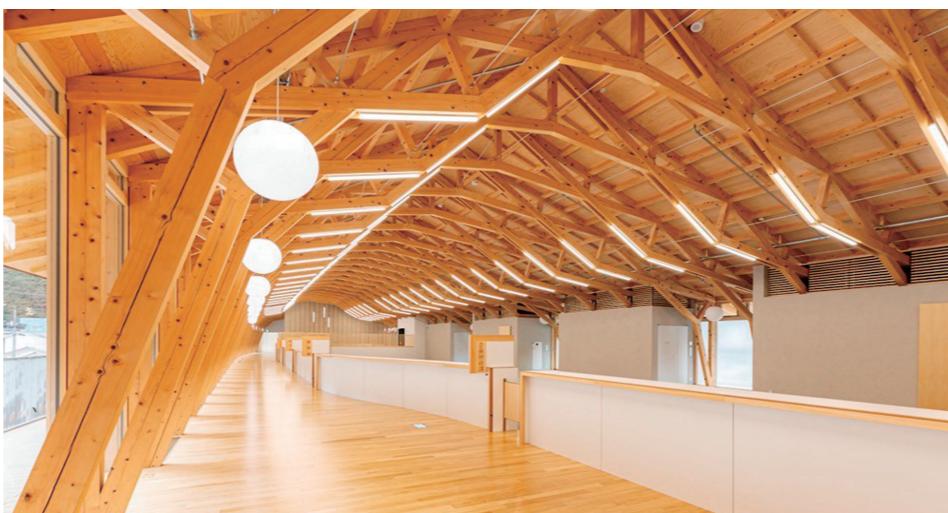


白川町新庁舎完成開きよき



県道に面した南側外観



無柱の執務フロア（2階）



ラウンジ



議場・大会議室



設計コンセプト



高松氏



本村氏

計画敷地は公共施設が立ち並ぶ県道沿いに位置し、まちの中心地としてまちの活性化に寄与できるボテンシャルを感じた。人がつながり、まちがつながる、この庁舎移転が町のさらなる活性化を願い、庁舎建設のコンセプトを【「庁舎づくり」からつながる「ひとづくり」、「まちづくり】】と掲げた。

地域完結型の木材利用プロセス

新庁舎は浸水の可能性がある敷地のため、1階を鉄筋コンクリート造、2階を木造とした。

木造部分は全て町産材（100%）を実現し、構造だけにとどまらず木材をとことん使い切ることを考え、施設全体で地域の誇りである東濃ヒノキを活用した。

町で作れる製材サイズを活用し、在来工法による架構、接合部とした。これは①町有林の利用、②町内で天然乾燥、③町内業者が製材・プレカット、④町内業者が施工できる、地域完結型のプロセスであり、地元業者と共に作り、地元経済の貢献につながっている。

製材時に出た端材を1階のコンクリート化粧柱や、ルーバー材、内装材に活用した。フローリングや木製建具にも町産材ヒノキを活用して、とことん地元の木を使い切ることにこだわった。

「寄りやすい庁舎」として、町内の人々も寄りたくなる庁舎を目指し、地域ワークショップや子どもたちの木造体験会等、さまざまな形で参画頂いた。吹き抜けのエントランスホールには町民も利用できる開かれた議場が象徴的に配置され、1階部分には事業者を公募してカフェが入る。これも地域の想いを形にしたものである。

庁舎建設を通して多くの人と人がつながり、皆でつくり上げた地域完結型の木材利用プロセスが今後も継続的に実践されることを願う。

石本建築事務所 設計部門建築グループ 本村昭雅、高松達弥

自然と調和しこだわり詰めた地域の中核施設

岐阜県白川町が整備を進めてきた新庁舎が完成した。自然との調和に配慮し、町産の東濃ヒノキを最大限使用。利用者の使いやすさや地域の安全性などを重視した施設には、多くのこだわりが詰まっている。設計・監理を石井建設が担当。13日に開庁式が行われ、人々の暮らしを支え、交流を深める地域の中核施設が供用を開始する。

本建築事務所、施工を松井建設が担当。13日に開庁式が行われ、人々の暮らしを支え、交流を深める地域の中核施設が供用を開始する。

白川町長 佐伯 正貴

ヒノキの美しさ際立つ木造建築

令和6（2024）年4月より工事を進めてまいりました白川町新庁舎が完成し、開庁の運びとなりました。

旧庁舎は、築後70年近く経過しており、施設、設備の老朽化が著しく、また、耐震性など、役場庁舎として大きな課題を抱えておりました。

町では、10年ほど前、新庁舎建設の検討を始め、財源として基金の造成を開始、また、検討委員会を設置し、協議を重ねながら事業を進めてまいりました。

役場庁舎は、町民の生活状況の変化や、節目ごとにさまざまな支援やサービスを提供する公共施設としての役割と、それを支える行政活動の拠点としての職員の勤務空間であるとともに、災害時の防災拠点として町民の安全を守る役割がますます重要となっています。

新庁舎は、防災対策に重点をおいたため、1階部分をRC造とし、2階部分は東濃ヒノキの産地である白川町らしく、ヒノキの美しさが際立つ木造の建物となっています。

新庁舎完成を契機として、より質の高い行政サービスの実現を目指すとともに、町民の皆様の期待に応える所存でございます。

新庁舎整備にあたり、関係者の皆様方のご理解とご尽力に対し、あらためて深く感謝申し上げます。



エントランスホール



2階南側のテラス付近

工事概要	
事業者	名白川町新庁舎整備事業
発注者	岐阜県白川町
建設地	岐阜県白川町河岐1705-2
敷地面積	4,851m ²
規模	2階建て（1階RC造、2階W一部RC造）延べ2,607m ²
設計・監理	株式会社石本建築事務所名古屋オフィス
施工	（建物）松井建設株式会社名古屋支店、（外構）株式会社ニシノ
工期	2024年4月～2025年11月

建物写真提供：岐阜県白川町、松井建設株式会社

新庁舎の建設に当たり、地元産の東濃ヒノキがさまざまな材に活用されました。作業所長を務めた松井建設名古屋支店の青木清隆氏は「天然の木材は工場製品と違って多少のねじれが懸念され、納まりなど現場にうまくなじませるのに腐心した」と振り返る。2階の執務エリアは木の下駄構造で無柱空間を創出した。原木を製材する際、構造材に利用できない端材も羽根皮をコンクリートに転写し、建物全体でヒノキを感じられるよう施しました。一端材の型枠はサイズも厚みもバラバラで、現場スタッフが壁面の最終的な出来栄えを脳裏に描き、苦労しながら割り付けた」（青木氏）。

2階の床と壁のコンクリート打設を行った際には、木造部のアンカーボルト

があり、ミリ単位の精度が必要なため、青木氏は「最も重要なことを張る

打設期間は降雪の影響で作業が1ヶ月ほど伸びた。木造の2階アリエは、複数のフレームを地組みで構築しながら

行う際には、木造部のアンカーボルト

があり、ミリ単位の精度が必要なため、青木氏は「最も重要なことを張る

打設期間は降雪の影響で作業が1ヶ月ほど伸びた。木造の2階アリエは、複数のフレームを地組みで構築しながら

行